

2011年度

科目名	教育社会学				
担当教員	棚田 洋平				
配当	文 2・人間2		コード	51019	
開期	後期	講時	金曜日1限	単位数	2
授業テーマ	①教育と社会の関係性の把握 ②日本の学校文化・学校制度の理解				
目的と概要	人々にとって当たり前となっている「教育」「学校」というものについて、改めて考え、とらえ直してみることがこの授業の目的である。とりわけ、わたしたちが今現在「当然のもの」としている日本の学校教育について、学校文化や学校制度という側面から、参加者とともに考えていきたい。その際に、参加者が自身の教育経験・学校経験をもとに、それら日本の学校文化や学校制度を振り返る作業を随時おこなっていく。				
成績評価法	平常点(授業時の参加姿勢)20% 各回の授業時のレポート40% 試験40%				
テキスト	使用しない。				
参考書	各回の授業時に適宜紹介する。				
履修に当たっての注意・助言/準備学習	個別作業やグループワーク、ディスカッション等の活動を多く取り入れる授業を予定しているので、各自の積極的な参加を期待する。また、各回授業を受けるにあたっては、前回までの授業内容を理解し整理した上で臨んでほしい。				
講義計画					
以下の日程で授業をおこなっていく予定である。					
① イントロダクション：「教育社会学」という学問 ② わたしたちにとっての教育とは？ ③ 教育と社会：教育の歴史 ④ 学校と社会：学校の歴史 ⑤ 学校文化という視座：「学校的なるもの」とは ⑥ 日本の学校制度 ⑦ 日本の学校文化①：日本の学校の特徴 ⑧ 日本の学校文化②：学校は「だれ」のものか？ ⑨ 教師という仕事①：教師とは？ ⑩ 教師という仕事②：現在の教師をめぐる諸問題 ⑪ 子どもにとっての教育①：さまざまな「教育問題」 ⑫ 子どもにとっての教育②：マイノリティが語る学校教育 ⑬ おとなにとっての教育：生涯学習という視点 ⑭ 地域と教育 ⑮ まとめ					